九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Gentrification in Contemporary Urban China under the Economic Reform and Open-door Policies

黄, 幸

https://hdl.handle.net/2324/1654594

出版情報：九州大学, 2015, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（様式６－２）

氏　　名	黄　幸
論　文　名	Gentrification in Contemporary Urban China under the Economic Reform and Open-door Policies （改革開放下の中国都市部におけるジェントリフィケーションに関する研究）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　高木　彰彦 副　査　　九州大学　　教授　　遠城　明雄 副　査　　九州大学　　准教授　今里　悟之 副　査　　九州大学　　准教授　中島　楽章

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

ジェントリフィケーションとは、都心付近の衰退地域において、富裕な若年層が移住した結果、老朽化した住宅が改修されたり、再建されたりして、近隣社会が再生される現象のことを指す。インナーシティ問題が深刻化した欧米の大都市では、1960 年代半ば以降、インナーシティ再生現象としてジェントリフィケーションが注目されてきた。2000 年代以降は、欧米以外でも、再開発などによる居住地域の再生や住民階層の上昇を伴う現象が広義のジェントリフィケーションとして注目され、研究が進展してきた。本研究も、こうした広義の研究に位置づけられるもので、改革開放以降、市場経済が導入された中国の北京市と成都市を事例として、ジェントリファイアー（開発地域に転入した新住民）の特性や移住の動機を捉えるとともに、立ち退きさせられた者（旧住民）の特性をも把握し、立ち退きの影響を解明することを目的としたものである。

本論文は 7 章から成る。第 1 章では、中国のジェントリフィケーションに関する制度や政策的側面を、欧米と比較しながら整理し、本論文の研究目的、研究アプローチ、研究方法および研究内容の構成を述べている。

第 2 章では、ジェントリフィケーションの展開とその研究動向を整理している。近年、ジェントリフィケーションの用語と概念が幅広く用いられるようになったため、その形態や発生する空間、公共政策の介入などの研究動向を整理するとともに、ジェントリファイアーの特徴の変化や立ち退きの動向についても検討した結果、中国では、ジェントリファイアーや立ち退きさせられた者に関する研究が不十分だと指摘している。

第 3 章と第 4 章は内陸部の中心都市である成都市の事例研究である。まず第 3 章では、成都市における都市再開発事業の概要を述べた後、再開発地区に居住するジェントリファイアーは、管理職と専門職が多く、教育水準が高く、ファミリー世帯や中高年夫婦世帯が多いこと、居住地選択に際しては、生活の利便性、多様なライフスタイル、地域の評判や安全などを重視していること等を指摘した。第 4 章では、成都市都心部における旧単位住宅の取り壊し工事を事例として立ち退き問題を取り上げている。地方政府が住民を立ち退かせるために、住民内部の対立を惹起し、立ち退きのストレスをかけ、陰では強迫や勧誘を行ったのに対して、立ち退きに対する住民の反応は住宅所有権の有無によって異なり、賃貸住宅の住民は反対があまりなかったが、住宅所有者の場合、住民の結束力が強い地区では反対運動が強く、結束の弱い地区では反対運動がみられないことを明らかにした。

第 5 章と第 6 章は北京市都心部の事例研究である。第 5 章では、文化資本や空間資本という概念に依拠しながら、ジェントリファイアーの特徴や居住地選択の動機を明らかにしている。ジェントリファイアーは、ファミリー世帯や中高年夫婦世帯が多く、都心部への居住の動機については、立地の優位性、交通の利便性、生活の利便性などを重視しており、ジェントリフィケーションによって空間資本の蓄積を図っていた。とりわけ、子育て期の世帯は子の教育を重視し、それが居住地選択に強く影響するため、制度的文化資本の蓄積を図っているという。第 6 章では、立ち退きさせられた者のために政府が都市縁辺部に用意した住宅を探し出し、ジェントリフィケーションが旧住民に与えた影響を考察している。住宅の質は良くなったものの、旧住民の多くは生活の質や場所のセンス、社会的紐帯が壊された等のマイナス面を強調していること、また、北京市の拡大によって、新住地の利便性が増したにもかかわらず、社会的地位が低いためにマイナス面が改善されない等の問題点を指摘している。

第 7 章では、中国におけるジェントリフィケーションが改革開放以降の混合制度の産物であり、二元的な土地制度や社会主義時代の計画経済の名残、階層分化の進行、政府の力の強さ、グローバル化の影響などが絡み合って独特のジェントリフィケーションを形成したとして、研究をまとめている。

本研究の最大の意義は、ジェントリファイアーと立ち退きさせられた者という新旧住民に対して、膨大なアンケート調査と聞き取り調査を実施し、ジェントリフィケーション過程における新住民の特徴と移住の動機、旧住民の特徴と立ち退きに対する不満などを明らかにしたことにある。方法論的および手法的な不十分さも見られるものの、こうした現地調査によって、統計的な資料からは把握しえない住民の特徴を解明したことは、中国におけるジェントリフィケーション研究に重要な貢献をしたといえる。以上のことから、本調査委員会は本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに充分な能力をもつと認めるものである。